

(様式2)

## 学校関係者評価報告書

愛媛県立松山南高等学校

学校番号(22)

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 学校評価全体について</p> <p>昨年度から始まった「オール南高」体制のもと、全・定・分が協力し、それぞれの特色を生かした充実した教育活動が展開され、生徒が生き生きと活動している。生徒の活動を支えている教員が、信念と確信をもって指導出来ているからこそその結果である。</p>	<p>来年度は全・定・分のPTAの皆さんや本校・分校の同窓会の方々にも御協力をいただき、市内と近郊の中学生と保護者に対して、「オール南高」体制で日々の生徒の活動やCR・SS、合同研究等の成果をアピールするため、2月1日(土)に合同の芸術・文化発表会を開催することを決定している。</p>
<p>2 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導</p> <p>(全・定・分)ここ数年間の取組の成果として文武両道が図られ、さまざまな面で成果を出している。南高に来てよかったという思いを高めていくことが自己肯定感につながる。南高の良さは卒業してからも親密な関係を保てることである。学習面はもちろん、いろいろな場面で南高の誇りを育て伝統につなげてほしい。</p> <p>(分) 砥部分校の活躍をさまざまなメディアを通じて数多く見聞するのは、嬉しい限りである。</p> <p>デザイン科であるため芸術作品に触れたり、実習で作品を作ったりすることも多い。教員が生徒一人一人を人間として見守り、それぞれの得意分野を伸ばしてくれている。それが自己肯定感・自信につながっており、大変感謝している。</p> <p>(全) ホームページが、昨年度にも増して充実している。SSHの活動や発表原稿、教養アップ講座の参加感想などが掲載されており、興味深く読ませてもらった。ただ、発表原稿を読んで気になるのが参考文献の扱いである。外部に対して研究成果の公開を行っているのだから、より学術的なものにしたほうがよい。また、イチョウを使った釉薬の研究成果が気になるところだ。</p>	<p>「心を耕し言葉を磨く」のキャッチフレーズのもと、人間性を育てていくことを第一として学校経営を行っているが、今年度は学習活動だけでなく、多くの分野で他から高い評価をいただいた。学習環境整備の観点からも、校舎の改修や改善を進めているが、引き続き校舎の改築を粘り強くお願いしていきたい。</p> <p>砥部分校は、地域と強く結び付き、地域活性化のための核になっている。様々なメディアでの活躍は、地元砥部町を始め多くの方の御支援をいただいた賜物である。今後とも、生徒の創作意欲を刺激する新しい学習活動にも着手していきたい。</p> <p>貴重な意見をいただき、本当にありがたい。過去10年の研究成果を随時掲載したものであるが、統一されていない点や不備な点も多い。今後は、研究のプロセスや論文の書き方、発表形式等について、教員・生徒の意識改革を図り、研究論文として恥ずかしくないものを目指していきたい。砥部分校との共同研究である「イチョウの灰を使った釉薬の研究」については、論文の形で御提示できるように努めたい。</p>

<p>(2) 生徒指導</p> <p>(全・定・分)交通安全については、通学時の南高生のヘルメットの着用の様子やマナーは素晴らしい。この一年間大きな事故がなく良かった。昨年度出席した際は、いじめに発展する恐れのある事案があったが、今回のアンケートではそれもなくなり、良い結果となっている。</p>	<p>交通ルールやマナーの指導を継続的にを行い、ヘルメットを着用し命を守る指導を今後とも充実させる。また、スマホやSNSの使用方法については、問題のある生徒も少なからずいるので、適切な時間管理や対応方法についても継続した指導を徹底したい。</p>
<p>(3) 進路指導</p> <p>(全・定・分)進路実現に向けて学びの楽しさを感じながら日々たくさんを経験しつつ、アウトプットする機会を得て、進路実現に結び付けていることがわかった。</p> <p>(全)関西の難関大学見学研修の企画も立てられているが、南高の同窓生・卒業生が役に立つことがあればぜひ協力したい。</p>	<p>今年度の3年生は、文武両道を実践し、運動会後は本当に熱心に学習活動に励んでくれた。その成果が、センターテストの好結果に結びついている。前期の結果が3月10日までに、後期の結果が24日までに出るが、これに対しても大いに期待している。また、卒業生の皆様にも日頃から御協力をいただき、感謝している。機会があれば、ぜひお願いしたい。</p>
<p>3 その他</p> <p>(全・分)学習時間調査を含め、さまざまな報告から学校が地域の要望に応えるべく、多方面で活躍していることがわかった。県や地域にとっては良いことだが、教員の多忙さを考えると一概には喜べない。教員の働き方を数値化した結果によると、ストレスの軽減が図られているようだ。だが、生徒自体の過労はどうであるのか。休養日の設定や部活動の統廃合はどうなっているのか。</p> <p>(全・定)今年は、末広町の防災組織と初めて会合を持ち、町内会や雄郡の消防団と連携した避難訓練を実施し、消防活動、給水活動、けが人搬送等を協同で行うことができた。画期的なことであり、今後とも継続していくことが望ましい。また、アンケート結果によると定時制の防災意識が低いのが気になるので、改善をお願いしたい。他にも、家庭クラブに対して依頼したいことがあるので、時機が来たらぜひお願いしたい。</p>	<p>文部科学省から、週2日以上（少なくとも平日1日・土日に1日）の休養日を設定するよう指針が出ている。本校は平日16時30分まで授業があり、完全下校時を厳守しての活動であるため、ふだんは活動時間が短い。さらに考査発表期間と考査中は、活動していない。各部ごとの大会日程の違いを考慮した上で、実情に対応できる仕組みを作っているところである。統廃合については、現在、部員と専門指導教員がいない、危険性の高い部に関して休部とする予定だ。</p> <p>今年度は防災と環境整備に力を入れ、避難所である体育館の点検・見学や合同避難訓練を実施することができた。また、近隣に迷惑をかけていた樹木の伐採・剪定を行うことができた。しかし、学校周辺の環境美化においてまだ努力不足の部分もあると考えている。学校全体で朝清掃等の手段を用い、周囲の美しい環境づくりに努めたい。</p> <p>また、定時制の防災意識については、避難訓練や研修等を通じて、高揚を図りたい。</p>